

東海道五十三次切手すごろく

これらの切手は「国際文通週間」のシリーズ切手として発行されました。切手の発行年は、各切手に描かれています。ルーペで拡大しながら、浮世絵の中をじっくりと旅してみましょう。

始点
スタート

にほんばし
日本橋



あさのけい
＜朝之景＞

まだうす暗いうちに
東海道の旅へ出発！

しながわ
品川



ひの
＜日之出＞

海からのぼる日の出がきれい
で、歩くペースがアップ！

二つ進む

かわさき
川崎



ろくごうわたりぶね
＜六郷渡舟＞

六郷川の渡し舟が
混んでいて、一回休み

かながわ
神奈川



だいのけい
＜台之景＞

高台からの海のながめが見事。
料理が評判の茶店で
昼食を食べよう

ほどがや
保土ヶ谷



しんまちばし
＜新町橋＞

武蔵国の一番西の宿場。
田園風景がひろがる
のどかな雰囲気

おおいそ
大磯



とらがあめ
＜虎ヶ雨＞

虎という女性の悲しい涙が雨に
なって降ってきたので、先を急ぐ

三つ進む

ひらつか
平塚



なわてみち
＜縄手道＞

田んぼの中をまっすぐな道は歩い
ても歩いても進んだ気がしない

一つ戻る

ふじさわ
藤澤



ゆぎやうじ
＜遊行寺＞

遊行寺と江ノ島弁財天に
旅の安全を祈願する

とつか
戸塚



もとまちべつどう
＜元町別道＞

日が暮れたので人気の
旅籠屋「こめや」に泊まる

★雑学メモ★

江戸時代の人々は東京から京都まで
を約15日間かけて歩いて旅をして
いました。1日約33キロ、7時
間ぐらい歩いていたことになりま
す。昔の人は足腰が丈夫ですね。

おだわら
小田原



さかわがわ
＜酒匂川＞

橋も舟もない川は人足にかつがれて渡る。
落ちないようにしっかりつかまって！

はこね
箱根



こすいず
＜湖水図＞

東海道で一番の難所。

急な山道はゆっくり進む 一回休み

みしま
三島



あさぎり
＜朝霧＞

朝早くに出発。寝ている人を起こさないよう、

次の順番が来るまで 黙ってよう

ぬまづ
沼津



たそがれず
＜黄昏図＞

五十三次の中で月夜をえがいた
のはこの一枚だけ 二つ進む

十六

ゆい
由井

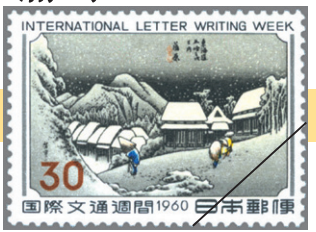


さったみね
＜薩埵嶺＞

難所のひとつだが
景色が見事。
峠でゆっくり休憩しよう
一回休み

十五

かんばら
蒲原



よるのゆき
＜夜之雪＞

本来雪のふらない温暖な場所の
雪景色は、想像でえがかれた風景

二つ進む
にっさか
日坂

十四

よしわら
吉原



ひだりふじ
＜左富士＞

三人乗りの馬に乗って進む。
自分より後ろにいる人を
二人この宿場に呼ぶ

十三

はら
原



あさのふじ
＜朝之富士＞

雄大な富士山が見られる
絶景ポイント

十七

おきつ
興津



おきつがわ
＜興津川＞

興津川の渡し。力士二人組と
すれ違った。重そうで気の毒だ

十八

えじり
江尻



みほえんぼう
＜三保遠景＞

五十三次の中で唯一、
人が描かれていない。
さみしくなって一つ戻る

二十四

かなや
金谷



おおいがわえんがん
＜大井川遠岸＞

川を渡る料金は川の深さによって
変わる。今日は深いので高いぞ！

十九

ふちゆう
府中



あべかわ
＜安部川＞

名物の安倍川餅がおいしくて、
食べすぎて腹痛をおこす 一回休み

二十五



さよのなかやま
＜佐夜ノ中山＞

道のまん中にある
「夜泣き石」に手を
あわせてから進もう

二十三

しまだ
嶋田



おおいがわすんがん
＜大井川駿岸＞

大井川の増水で川が渡れない
一回休み

二十六

かけがわ
掛川



＜秋葉山遠望＞

たこあ
風揚げは五月に行う大人の遊び。
風合戦は迫力満点だ
二つ進む

二十一

おかべ
岡部

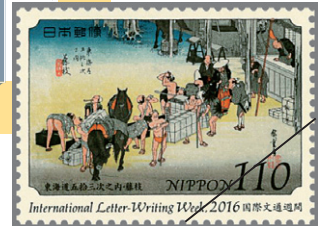


うつのやま
＜宇津之山＞

昼でも薄暗いさみしい峠道。
急いで進もう 一つ進む

二十二

ふじえだ
藤枝



じんばつぎたて
＜人馬継立＞

荷物が重いので
馬をやとったら楽になった

★雑学メモ★

はたご
東海道を往復するには、旅籠代、
茶店代、わらじ代、舟代や人足代、
ちやみせ
土産代など、今でいうとサラリー
マンの給料1ヶ月分ぐらいだったという。

四十

なるみ
鳴海

＜名物有松絞＞

めいぶつありまつしぼり
お土産に有松絞の帯を買う。
家族が恋しいなあ

三十九

ちりゅう
池鯉鮒

＜初夏馬市＞

しゅうまいち
馬の市場は多くの人で
にぎわっている。
初夏の草原が気持ちよくて
三つ進む

三十八

おかざき
岡崎

＜矢矧之橋＞

やはぎのはし
東海道最長の矢矧橋は長さ約378m！
現在も十六代目の
橋がかかっている

三十七

ふじかわ
藤川

＜棒鼻ノ図＞

ぼうばなのず
幕府が宮中に献上する
名馬の行列に出会う。
正座をしてみんなに挨拶
をしよう

三十六

あかさか
赤坂

＜旅舎招婦ノ図＞

りょしゃしょうぶのず
旅籠の中はこんな様子。
ルーペでよく見てみよう

二十七

ふくろい
袋井

＜出茶屋ノ図＞

でちやのず
五十三次のまん中の宿場。
あと半分、がんばろう！

三十

まいさか
舞坂

＜今切真景＞

いまぎりしんけい
海のような浜名湖。新幹線から見える風
景とどう違うか、今度確認してみよう

二十九

はままつ
濱松

＜冬枯ノ図＞

ふゆがれのず
寒い朝はたき火の火がありがたい。
温まってから進もう 一回休み

三十五

ごゆ
御油

＜旅人留女＞

たびひととめおんな
旅籠のおばさんに風呂敷を
引っぱられて苦しい…一回休み

三十一

あらい
荒井

＜渡舟ノ図＞

わたしがねのず
のんびりとした船旅は
今でいうなら浜名湖クルーズ

三十二

しらすか
白須賀

＜汐見阪図＞

しおみざかず
遠州灘の絶景ポイント。
大名行列は通り過ぎて行ったけど、
ゆっくり眺めてから行こう

三十三

ふたがわ
二川

＜猿ヶ馬場＞

さるがばば
今日はここで泊まって
替女の唄を楽しむことにする。
どんな話が聞けるかわくわくだ

三十四

よしだ
吉田

＜豊川橋＞

とよかわばし
次の順番が来るまで、
天守閣の修復をする
職人と同じポーズをして待とう

★雑学メモ★

「替女」とは、目の見えない女
芸人のこと。はやりの歌や事件、
噂話などを歌いながら伝える、
江戸時代の情報配信業。



終点
ゴール



さんじょうおおはし
＜三条大橋＞
日本橋から約 492 キロ！
京都・三条大橋に到着！
長旅、お疲れ様でした！



はくう
＜白雨＞
急な雨にみんないそぎ足。
一つ進む。この図と「蒲原」
が東海道五十三次の中で
傑作と呼ばれている

★雑学メモ★
「本陣」や「脇本陣」は大名
や公家が泊まる高級旅館の
こと。庶民は「旅籠屋」に
泊まっていた。



はしりいちゃみせ
＜走井茶店＞
琵琶湖の港町でもあり、
最大規模の宿場は
いつも大にぎわいだ



ゆきばれ
＜雪晴＞
ひとつ前の「庄野」は夏の夕方
だったのに、ここは冬の雪の朝！
これぞ広重マジック！



いしやくし
＜石薬師寺＞
石薬師寺は奈良時代から
続く古い寺院



めいぶつたてば
＜名物立場＞
名物の姥が餅屋は大繁盛。
今も草津名物として有名なので、
いつか食べてみよう



ほんじんはやだち
＜本陣早立＞
鈴鹿の関所の本陣では、
大名行列が出発の準備で
大忙しだ



みえがわ
＜三重川＞
おっと笠を飛ばされた！
風が強くてなかなか先に進めない
一つ戻る



めかわのさと
＜目川ノ里＞
茶店「伊勢屋」の名物は菜飯と
豆腐田楽。しっかり食べて
もうひとがんばり！二つ進む



ふですてみね
＜筆捨嶺＞
茶店から絶景を眺めている二人は
「弥次さん、喜多さん」かな？



しちりのわたしぐち
＜七里渡口＞
「宮」と「桑名」の間は東海道唯一の
海上路。舟を降りたら名物の
焼き蛤を食べよう



めいぶつかんぴょう
＜名物干瓢＞
水口の名物は干瓢。どうやって作っ
ているか、ルーペでよく見てみよう



はるのあめ
＜春之雨＞
峠を越えたら土砂降り。
増水した川を渡る。疲れたなあ
一回休み



あつたしんじ
＜熱田神事＞
熱田神宮によって、
残りの旅の安全を祈願する

五十

五十一

五十二

五十三

四十九

四十八

四十七

四十六

四十五

四十一

四十二

四十三

四十四